

令和7年度 都道府県医師会広報担当連絡理事協議会



理事 久貝 忠男



令和7年度都道府県医師会広報担当理事連絡協議会

日 時：令和7年4月17日（木）午後2時から4時
会 場：日本医師会館3階小講堂（ハイブリッド開催）

次 第

1. 開 会 黒瀬 巖 常任理事
2. あいさつ 松本 吉郎 会長
阪本 栄 広報委員会委員長
3. 議 事
 - 1) 報告「日本医師会の広報活動と今後の方向性について」
黒瀬 巖 常任理事
 - 2) 報告「SNS の活用に関するアンケート結果について」
阪本 栄 日本医師会広報委員会委員長 / 大阪府医師会副会長
 - 3) 都道府県医師会の SNS を活用した取り組み発表
①京都府医師会「研修医・若手医師との『つながり』」
（講師：田村 耕一 日本医師会広報委員 / 京都府医師会理事）

令和7年4月17（木）の1日間、令和7年度都道府県医師会広報担当連絡理事協議会が日本医師会館で開催された。松本吉郎会長のあいさつに引き続き、黒瀬巖常任理事による「日本医師会の直近の広報活動について」報告がなされた。

日医からは実に多くの広報活動が行われていた。「世界禁煙デー」の東京タワーのライトアップや同タワー2階での啓発展示、北里柴三郎先生の「新1万円札発行を記念してのシンポジウム」、日本歯科医師会との合同健康長寿のシンポジウム「知ってほしい！お口の重要性」、「次の大規模災害に向けてのシンポジウム」等々。実に多彩で精力的な広報活動が行われていることは感服した。

一方で国民との互換性、透明性には課題を残した。昨今、広報媒体のツール、それはそのまま組織力強化につながるため年齢層で大きな隔たりを思い知らされた。よく言われるが若年層は圧倒的にネット、60才以上はテレビで

②沖縄県医師会「沖縄県の小児救急適正受診の一助～LINE×AIチャットボットを活用した#8000LINEアカウントの開設～」

(講師：當間 隆也 沖縄県医師会理事)

4) 質疑応答

4. 総 括

角田 徹 副会長

ある。ネットとテレビの入れ替わりは40～50代で、全年齢層を通して新聞、ラジオは極めて低調であった。浜松医大の1年生へのアンケートでも今後提供すべき媒体はSNSが約80%と断トツであった。そして、その媒体はTikTok、Instagram、Xで80%を占め、LINEは低調であった。今後SNS発信でも長短所を考えたツール戦略が必要である。一方でSNSに疎遠な高齢会員への情報伝達も引き続き強化が必要であり、多角的な広報活動の難しさを痛感した。

阪本広報委員長から「SNSの活用に関するアンケート結果について」報告があった。広報委員に利用する媒体としてLINEやYouTubeが上位につけたが、これは浜松医大のアンケートと真逆の結果となったのは興味深い。また、SNSの重要性は認識しつつも、各論では専門職がいない、高齢会員が多い、情報漏洩の心配など課題が山積している印象であった。広報媒体の選択、会員の世代交代と合わせ広報活動も過渡期である印象を受けた。

次に、各都道府県医師会のSNSを活用した取り組みの報告がなされた。

京都府医師会からは組織強化の取り組み。「KMA.com」は研修医・若手医師とのつながりを持つことで組織強化を図るものである。「新研修医総合オリエンテーション」で研修医全員に公式LINEから「KMA.com」にまず無料で入会してもらう。「KMA.com」は医師会入会や組織強化の入口であり、その後登録者にはダイレクトに定期的な情報を発信して、「つなげる」を継続する。会員増に繋がっているようで今後の成果が楽しみである。

最後に、当医師会の當間理事より小児救急の逼迫が報告された。その課題解決のため「#8000LINEアカウントの機能」が導入され、昨年の7月から制作開始された。業者との打ち合わせから開発まで4か月のスピードで開発に漕ぎつけた。開発費も高くなく、参集の各都道府県医師会からも好感を持って受け入れられた。質問も多く、場を席卷していた雰囲気があった。既存の「子ども救急ハンドブック」とも連携し、少しでもお母さんたちの不安を和らげ、救急の適正受診に繋がる努力をしている。2025年4月8日の時点で4,739人が友達登録をし、近い将来「救急受診日本一」の汚名返上できることを期待している。

子ども医療電話相談事業

#8000LINE アカウント

LINE お友だち登録▶

